

主催者代表挨拶

福井 照 文部科学副大臣

本日は、お忙しい中大勢の皆様、「第10回国際教育協力日本フォーラム」にご参加いただき、心より御礼申し上げます。主催機関の一つである文部科学省を代表して、ご挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、外務省、広島大学、筑波大学と文部科学省が主催者となり、開発途上国自身による自立的教育開発とその自助努力を支援する国際教育協力のあり方について、教育の第一線で活躍する国際機関や二国間の実務者、教育開発の専門家の方々をお招きして意見交換することを目的に、2004年から毎年開催しているものです。

今回は、「良質な基礎教育拡充に向けて－教員をめぐる課題－」をテーマとし、「ポストEFA（万人のための教育）」を見据えた国際教育協力のあり方について検討することとしました。国際社会が一致団結して取り組んでいるEFAでは、全ての子どもが無償で質の高い義務教育へのアクセスを持ち、修学を完了できるようにすることや、教育の全ての局面における質を改善することを目標としており、その達成期限である2015年が間近に迫っています。EFAにおける様々な国際教育協力の取組の結果、学校に通っていない子どもの数は、世界全体で1999年の約1億800万人に比べて2010年は約6,100万人まで減少し、特に南西アジアでは不就学児童が約7割弱減りました。しかし、別の言い方をすれば、貧困層、女性、障害を持った人々、農村部、紛争地に住む人々、少数民族や言語的マイノリティなど、様々な要因により初等教育を受ける機会から阻害されている人々が、まだ6,100万人いるということになります。

EFAの達成に向けた今後の国際教育協力においては、このような教育の機会確保の課題の他、教育の質の向上や、ポストプライマリー教育等が課題として残されています。6億5,000万人の学齢児童のうち、1億3,000万人の子どもが基本的な読み書き計算能力を身に付けられておらず、1億2,000万人の子どもが第4学年に達していません。また、初等教育の普及に伴い、中学校の需要が増加していますが、低所得国では、中学校入学者は52%で、数百万人の若者が生活費を得るための基本的なスキルを身につけられない状況に置かれる等、2010年で7,100万人の若者が中学校に通えていない状況です。

「知識基盤社会」と言われる今日、教育の機会確保と同様、教育の質の向上は世界共通の課題となっておりますが、そのためには、教員の資質能力の向上や学校の管理運営面での改善が重要です。また、それを可能にする教育制度の改革や教育環境の整備も喫緊の課題であります。

私たちは、世界の全ての子どもが、人生の礎となる良質な糧を学校で習得し、個々人の能力を存分に発揮できる社会を目指しています。そのような社会の構築のために、これまでの取組の成果を検証し、今後の国際的な教育協力のあり方を真摯に見直していくことが必要です。

本日基調講演をお願いしているジンガイ・ムトゥンブカ アフリカ教育開発連合議長は、幅広くアフリカの教育課題について知見を有する方であり、良質な基礎教育拡充における教員の役割と課題についてアフリカの視点から紹介していただきます。また、日本からは、窪田 眞二（くぼた しんじ）筑波大学人間系教育学域教授に、日本の義務教育学校教員をめぐる課題について発表していただきます。

午後のセッションでは、アフリカ、東南アジア、南米、日本出身の4名のパネリストの方々にお集まりいただいております。今後の国際協力の在り方についてそれぞれの立場から活発にご議論いただく予定です。本日の講演や議論を通じて、各国の知見を共有し合い、実りある成果が収められると共に、その成果が各国の教育の質の向上に繋がることを期待しています。

最後に、本フォーラムの実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様にご挨拶を申し上げますとともに、本日のフォーラムが皆さまの今後の活動にとって有意義なものとなりますことを祈念しまして私からのご挨拶とさせていただきます。

主催者代表挨拶

阿部 俊子 外務大臣政務官

1. 冒頭

御列席の皆様、今日は、「第10回国際教育協力日本フォーラム」にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。このフォーラムの共催者である外務省を代表し、一言御挨拶申し上げます。

2. 2015年に向けた国際社会の動き

ユネスコが主導する万人のための教育（EFA：Education for All）、そして国連のミレニアム開発目標（MDGs）、それぞれの達成期限である2015年がいよいよ近づいてまいりました。途上国、開発パートナー、NGO等のこれまでの取組により、世界全体で見ると初等教育の就学率は大きく改善するという成果を挙げております。しかしながら、それでもなお、期限までの初等教育の完全普及達成は困難と見られており、国際社会はEFAとMDGsの達成に向けた努力を加速する必要があります。

一方で、現在すでに、国連を中心に、現行のMDGsが期限を迎える2015年より先を見据えた議論も、様々なフォーラムで始まっています。教育分野については、初等教育への就学の面のみならず、教育の質及び学習成果の向上の重要性が取り上げられています。また、国連事務総長は、教育を最重要の課題として取り組むとの決意の下、昨年国連総会において、教育に関するイニシアティブ「エデュケーション・ファースト（Education First）」を発表しました。本イニシアティブの中でも学習成果の向上が優先分野の一つに挙げられています。

3. 我が国の取組

10回目を数える今回のフォーラムにおいては、こうした国際社会における議論も踏まえ、教員をめぐる課題を取り上げることいたしました。教育の質及び学習成果の向上を図るためには、学校施設や教材を用意することもさることながら、児童に教育を行う教員の役割が極めて大きく、教員に十分な能力が備わっていることが重要であると考えます。我が国は、EFA及びMDGs達成への貢献と、人間の安全保障の実現に向けて、2010年に新教育協力政策を発表いたしました。その中で提唱しております基礎教育支援モデル「スクール・フォー・オール（School for All）」でも質の高い教育の提供を重視しており、現在も多くの国で教員能力強化のための支援を行ってきています。

本年は5年に一度のアフリカ開発会議、TICAD Vが横浜で開催されます。アフリカは、ご承知のとおり経済成長が著しい一方、MDGsの進捗が最も遅れている地域です。この機会を捉え、アフリカ諸国及び開発パートナーの間で、MDGs及びポストMDGsについてもしっかりと議論し、その中で教育の質の向上の重要性についても確認し、共に取り組んでいきたいと考えています。また、TICADにおける議論をポストMDGsに向けた我が国の貢献として国際場裡においても積極的に発信してまいります。

4. 結語

本フォーラムは、国内外の有識者をお招きし、教育協力に関して自由かつ忌憚のない意見交換を行う貴重な場となっております。是非、「教員」という教育にとって重要なテーマについて活発に議論をいただき、今回のフォーラムが実りあるものとなりますことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。